

21世紀への地域づくりと 交通網整備

鈴木礼治
愛知県知事

Aichi's Regional Development and
Transportation Network Improvement
Strategy for the 21st Century

Reiji SUZUKI
Governor of Aichi Prefecture

近年、金融、情報など高次機能の東京への一極集中傾向が強まる中で、東京と地域との格差が拡大し、国土構造上の歪みを顕在化させるに至っている。このような流れに歯止めをかけるため、多極分散型の国土政策の積極的な展開が強く求められる一方で、それぞれの地域自身も知恵をしばり、自発的な活性化に向けて一層の努力を積み重ねることが必要となっている。

こうした中、国土の中央に位置し、かつ、国土幹線軸上にあつて、特に産業経済面で重要な役割を果たしている本県は、交通・情報通信体系整備の飛躍的な進展を生かしつつ、より高次な都市機能の集積を高めることによって、東京一極集中を是正し、多極分散型国土形成に向け、先導的な役割を担っていくことが望まれる。

名古屋圏は、第四次全国総合開発計画で位置づけられた「世界的な産業技術の中核圏域」の形成を大きな目標としている。そのためには、まず、今日、社会経済活動が全国、さらには世界との結びつきを一段と強めている中で、人・物・情報の交流を一層拡大する交通・情報通信基盤の整備を推進し、この地域の交通・交流の拠点性を更に大きく高めていくことが必要である。私どもとしては、知多半島常滑沖を候補地として実現をめざしている中部新国際空港をはじめ、リニア中央新幹線、第二東名・名神自動車道を三点セットとして、これらを早期に実現していくことなど交通基盤を重点的に整備し、これを原動力にこの地域の総合的な発展をめざしていきたい。

そして、こうした地域づくりを促進し、この地域がわが国、さらには世界に多様な分野で貢献していく契機とするため、万国博覧会を21世紀の初頭に開催すべく関係各方面に働きかけている。

交通基盤の整備は、地域社会の発展と密接に関わっており、ひいては国土全体の均衡ある発展に寄与するものである。したがって、三点セットを軸とした陸・海・空の総合的な交通体系の整備を強力に進め、そうした基盤の上にこの地域が得意とする産業技術分野を中心に各種の世界的な中核機能、高次都市機能をしつかりと担ってまいりたい。さらには質の高い居住空間や自然との調和のとれた環境整備など、県民生活の各般にわたり豊かさが実感できる諸取組を進め、21世紀に向け「世界に開かれた魅力ある愛知」の実現をめざしていきたいと考えている。

原稿受理 1991年3月5日